

実質化された人・農地プラン

注：本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
日高村	本郷・加茂地区 (父原、妹背、梅ヶ坂、柏井、 鹿児、宇井、西ノ越)	9月30日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	44.06ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	27.95ha
③地区内における60才以上の農業者の耕作面積の合計	22.77ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	6.79ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	8.88ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	1ha

- 注1：③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2：④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4：プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

圃場整備済の農地が多く、中心経営体による農地集積が進んでいる。平成26年度から多面的機能支払交付金を活用し、農地維持管理を行っている。担い手も少数且つ高齢であり、十分でない状況となっている。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

本地区は、日高村の基幹作物であるトマトハウスの団地が位置する地区であり、多くの中心経営体とそのトマト農家である。今後も産地を維持・発展していくため、現在経営している農家の規模拡大や、新たにトマトで就農を希望する農家へ集約していく。

水稲・オクラを経営する中心経営体に、農地の引受意向が強いため、管内の農地で水田利用となっている土地について、集約を行い作付けの転換を図る。

その他水田農業の経営地については、現状の経営を維持しつつ、高齢化などにより耕作が難しくなった土地について、施設園芸や路地野菜への転換など、状況に応じて中心経営体に集約を行う。

注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。